

# 峰のひかり

発行人  
 社会福祉法人 七峰会  
 理事長 奥田 稔  
 〒036-8356  
 青森県弘前市大字下白銀町21-8  
 電話 (0172)33-8861  
 FAX (0172)33-8862



## 地域生活支援の 拠点として 拓光園

知的障害者  
 更生施設

拓光園

『日中一時支援事業所』が拓光園に開設したのは今から約1年前、平成18年10月1日のことでした。

日中一時支援事業は市町村の任意事業であり、障害者(児)の日中における活動の場を確保し、障害者(児)の家族の就労支援及び障害者(児)を日常的に介護している家族の一時的な休息を目的としています。また障害者(児)本人に活動の場を提供し、見守り、社会に適應するための日常的な訓練を行うこととしています。

開設以来、利用する方々も徐々に増え、今では小学校1年生から、55才までと幅広い年齢層の38名の方々が登録しています。

①園内での活動  
 午前は18歳以上の方の利用が多く、センター到着後、バイタルチェック(検温・血圧測定等)を行い、体調を見極めながら活動に入ります。

活動内容は、さき織り・ビーズのれん作り・刺し子・貼り絵・園芸などですが、天気の良い日は体力維持も兼ね、綺麗な岩木山を眺めながら歩行も行っています。午後からは、学校を終えた18歳未満の児童も利用しています。児童にも同様に、様々な活動を提供しています。

多くの活動や、人と人との関わりの場を経験することで、社会生活に必要な技術を身につけることができます。

## ②外出活動

園内で行なう様々な活動のほかに利用者の皆様が大好きな外出活動があります。18歳以上の方たちは「桜祭り見学」「わらび採り」「さくらんぼ狩り」や秋には「ニジマス釣り」「もみじと菊人形祭り見学」、冬は「雪燈籠祭り見学」等、児童は、「弥生いこいの広場」で動物と触れ合ったり、「つがる地球村」のアスレチックで遊んだり、夏には18歳以上の方と一緒に鯀ヶ沢で海水浴へ出掛けたり、季節の行事を楽しんでいます。このように様々な活動を通し、社会体験の場を提供しています。

## ③その他のサービスと契約地域

入浴・給食・送迎サービスも行っています。入浴は午後に行っています。給食も本人の状態に合わせ、栄養士と相談して提供しています。

営業時間は8時～17時となっていますが(営業日は年中無休)、送迎はご都合に合わせて、相談に応じています。

事業の委託契約締結市町村は、弘前市・平川市・青森市・八戸市・藤崎町・板柳町・鯀ヶ沢町となっています。一日の利用定員は10名です。

拓光園ではこのほかに通所利用事業や児童デイサービス、短期入所支援などの事業も行っており、地域生活支援の拠点として利用していただけるようこれからも努めてまいります。

(八戸は転勤された方が、こちらへ帰省した際に利用しています。)



福祉ホームさわら  
充実した生活を送って  
います — 4年目を迎えて

社会就労  
センター

旭光園

今年の夏は連日の猛暑で、秋彼岸近くまで3度を越えるアツイ日が続きましたが、福祉ホーム「さわら」の方は元気に生活しています。

元気の源は食べること

平成16年4月にスタートし3年半が過ぎました。新しく生活を始めた7名の方は、当初色々な不安を持っていました。特に炊事は初めてという方がほとんどで、ご飯の炊き方や包丁の使い方から練習する必要があります。初めは冷凍食品の多かったメニューも徐々にレパートリーが増え、今では仕事を終えた夕方になると「今日の夕食はなに?」「今晚はカレー」「私は野菜炒め」といった会話が普通に聞かれています。食事をしっかり摂り、元気に仕事をしています。

近所付き合い

旭光園の開設当初からリネン交換や園周辺の清掃を、長年ボランティアで協力して下さる方が居ます。「さわら」の方も自宅が近いため普段から挨拶や世間話をする

など、気取らないお付き合いをしています。話しをすることで気分転換になったり、時折り畑で採れた夏野菜や果物を届けてくれるため、感謝しながら美味しく頂いています。そんな状況に「さわら」の方は「これからも特別なことは出来ないけれど、ご近所付き合いを大切にしたいです。」と話しています。

小さくても我が城

「さわら」はワンルームの中にキッチン・シャワールーム・トイレなどの設備があります。決して広いとは言えない部屋ですが、シンプルイズベストと出来るだけ家具を置かない方・ソファを用意し応接間風にする方・畳みを敷き和室風にする方など、それぞれ工夫し自分の城を楽しんでいます。

一人で生活することは、家事や生活費のやり繰りなどの苦労があります。以前に体調を崩し、やむ無く退去した方も、近いうちにもう一度「さわら」で生活したいと話するなど、苦労以上に充実感の持てるホームとなっています。



祝・敬老の日

特別養護  
老人ホーム  
サンアップル  
ホーム

平成19年9月17日、特別養護老人ホームサンアップルホームでは、グループホームアップルも合流し、敬老会が行われました。

長寿の祝いは、基本的に数え年で行いますが、サンアップルホームの最ご長寿は、明治38年生まれの102歳になります。また、今年、100歳を迎えられた方もいますので、100歳以上は、2名となります。

○ご長寿表彰者

| 年齢              | 男性 | 女性 | 合計 |
|-----------------|----|----|----|
| 100歳以上          | 0  | 2  | 2  |
| 90歳以上<br>100歳未満 | 4  | 15 | 19 |
| 80歳以上<br>90歳未満  | 11 | 35 | 46 |
| 75歳以上<br>80歳未満  | 3  | 9  | 12 |
| 合計(人)           | 18 | 61 | 79 |

○80歳到達ご夫婦、一組

サンアップルホームの敬老会は、主催者挨拶から始まり、来賓祝辞、お祝いのメッセージ紹介、長寿者紹介および記念品贈呈、そして今年の祝いを彩る催しは津軽三味線演奏でした。たくさんのご家族様の来園により、厳かな中にも和やかに進められました。その後は祝宴に入り、利用者様を囲みご家族様ごとのテーブルで、祝料理をいただきました。中には、曾孫や玄

孫の小さなお子様連れの方々もあり、久しぶりの小さな子供のひとつひとつの動きを目を細めてみている方もいました。年齢差90歳、実に感慨深いものです。

サンアップルホームの長寿者は、加齢による筋力低下で車椅子使用の方も多いのですが、決して寝たきり者ではありません。むしろ年齢の高い方ほど、毎朝神棚へ手を合わせることが欠かさず行っている方や1時間かけて新聞を読むなどの日課を持っているのです。健康寿命というのがありますが、生きている長さの中で、元気で活動的に暮らすことの出来る長さをいいます。長寿の秘訣は、のんびり暮らす事、くよくよしない事といいますが、実は活動的で自分の時間の使い方をよく知っている方なのだと思います。祝・敬老。



第二十五回  
東北地区通勤寮大会

知的障害者  
通勤寮

拓心館

毎年一回、東北にある通勤寮が一同に集まり、同じ立場にある仲間同士が、語り合い、励まし合おうという目的で行われる通勤寮大会が今年も、日本三景の一つ宮城県松島町で行われました。

◇ 今年は『地域社会で生きて行くために』をメインテーマに、講演や発表があり、それぞれの夢や将来の事について考えることが出来たのではないのでしょうか。

講演では、講師に宮城教育大学就職支援講師である小野寺毅先生にこれまでの人生のなかで色々と出会った出来事の中から音楽に学び考えさせられたり、励みとさせられた貴重な体験談をお話しと歌を交えながらお聞かせいただきました。その体験談の中から「他人の立場を大切に考えてあげれば、いつかは必ず自分も支えられることがあるのだから友達を大切にしましょう。そして自分の考えとか信念を明らかに出来る人間になりましょう。」と締めくくられ、皆で「三六五歩のマーチ」を歌って励ましあっていました。続いて短い時間で全部の寮からの代表者が体験を交えて努力している貴重な生き方の紹介がありました。



夕方からは交流会が催され、他通勤寮生の方々と近況を語りあったり、ビールをグラスに注ぎあったり、余興を出しあったりと、とても楽しい時間を過ごしていました。翌日は、松島湾を観光遊覧船で塩釜まで移動しました。船の周囲を取り囲むようにウミネコの群れが寄ってきて、かっぱえびせんでの餌付けを楽しみました。塩釜に着いてからは、みんなそれぞれ勤め先へのお土産をどれにしようか迷いながら選んでいます。お昼はすし屋の数が日本一と言われる塩釜の握りずしを堪能しました。帰りのバスの中では、みんな疲れを見せずカラオケオンパレードのどを競い合っていました。

第1回  
山郷館くろいし秋祭り  
『秋の里 お祭り広場』

身体障害者  
療護施設

山郷館

まだ残暑厳しい、9月1日、土曜日、『山郷館くろいし』がオープンしてから初めての秋祭りが行われました。『秋の里 お祭り広場』と題された今回の行事は、利用者の皆様にとっても職員にとってもすべてがゼロからのスタートとなりました。

企画にあたっては「山郷館くろいし」の特徴であるユニットを活力とし、それぞれ喫茶店や絵描きせんべい、輪投げやくじ引きコーナーが利用者の皆様主体で行われました。

また、「地域活動支援センター キャンパス」との共催により、周辺地域の施設・作業所からの施設紹介と作品販売の展示が行われました。

当日は、前日の雨を吹き飛ばし、すばらしい秋晴れに恵まれ、心地よい日差しの中、最高の祭り日和となりました。

前庭での手踊り、吹奏楽演奏、マジックショー、展示即売などが大賑わいのうちに進行し、館内各ユニットでも多くの方々に楽しんでいただけたことができました。

して最後は、名物「黒石よされ」をみんなで踊り、大盛況のうちに、祭りの幕を閉じました。

利用者の皆様からは、楽しかった、あれがよかった、ここが面白かったなど興奮さめやらない喜びの声があがっていました。手探り状態ではじめての秋祭りでしたが、地元、八甲町会、東小学校吹奏楽、近隣施設、事業所の皆さんなど、多くの方々のご支援とご協力あつての結果だと思えます。そして利用者の皆様も職員もとても楽しい時間をすごさせていただきました。本当にありがとうございました。

利用者の皆様からは、次はこんな企画をやろう…。と早くも来年が楽しみな声が聞こえてきています。



